



Pick Up News 秋も深まり、冬を感じる季節となりました。講義、演習は折り返し地点を周り、今年も残すところあと1ヵ月、授業もあと4回ほどとなりました。あらためて、今の自分のいる位置や状況を振り返って、後半につなげていって下さい。ここからの2ヵ月は進級、卒業に向けて非常に重要な時間となります。学科では「海外研修」(ヨーロッパと中国とを隔年実施)を長年継続していました。残念ながらこの3年間はCOVID-19の影響で実施できず、そのプログラムを楽しみに入学した皆さんにとっては残念はことだと思います。海外の状況を踏まえると、来年度にはヨーロッパ研修旅行から再開できるのではないかと考えています。通例ですと2024年3月頃の実施となるでしょうか。学部・学科ではこれから企画を進めていきます。興味ある人は、頭片断に入れておいて下さい。また台湾中原大学への留学(2ヵ月間の派遣)も来年には再開したいと考えています。現4年生、及び来年修士1年に進学する学生で留学に興味のある人はぜひ考えておいて下さい。



「東北を支える建設関連企業・学生・学科との交流会」を開催します

3年生の就職活動も開始しています。自分の適性を知り、企業の特性を知り、うまくマッチングが図れる企業・職種を選んで下さい。なお、12月15日に『2022年度 東北工業大学建築学科主催 OBOG交流会：東北を支える建設関連企業・学生・学科との交流会』を開催します。コロナ以前の2016年度から2019年度まで、実施していたのですが、この2年間実施できませんでした。今年は開催します。3年生と卒業されたOB・OGの在籍する企業との対面での交流をおとし、専門性を活かして業界で活躍するためのビジョンを醸成するとともに、企業を学生の相互理解を図ることで、今後の学生の進路選択を支援するのです。



OBOG交流会 2019年度の実施の様子



中原大学(台湾)とのオンラインプロジェクト「卒業設計クロスエスキース」を実施中。

来春就職の4年生の内定者の声を集めました。

1. S.T.さん(宮城県出身)：株式会社 一条工務店
この会社の志望理由はハウスメーカーのなかでも圧倒的な性能に目が引かれたこと、社員同士の関係が説明会を通して、魅力に感じたからです。住宅系に絞って就職活動を進めていく中で自分の将来の目標を達成するための職場がこの職場だと直感的に感じました。昨年取得した二級建築士の資格を活かして、一日でも早く仕事を覚え、自分の目標に近づきたいです。

2. K.Y.さん(宮城県出身)：東北電力株式会社
発注者側の立場で仕事をする中で、建築に携わる一連の流れを掴めるといったこと、人々の生活を守りたいという思いのからインフラ業に就きたいと考えました。特に生活上必要不可欠だと感じた電力を建築の分野から支えたい、と思い、東北電力を志望しました。大手企業の志望で自身の能力や学歴では内定を貰えないと思っていましたが、採用者が見るのは学歴ではなく人柄や雰囲気だと思います。何事も無理だと決めつけず挑戦する大切さを学びました。

3. H.S.さん(青森県出身)：株式会社 弾構造設計事務所
この会社の志望理由は、高校から建築を学んできて構造設計に興味ややりがいを感じたからです。1週間のインターンシップで仕事体験をした際に、この会社の事業内容や社内環境のもと自分の今までの知識や技術を生かしたいと思いました。建築学科は幅広い建築分野を学ぶことができる学科です。本学の教授やOBからたくさん知識や意見を頂ける学びの環境です。入社後は、資格取得にも力を入れて、今後の建築業界に貢献していきたいと考えています。

4. K.M.さん(岩手県出身)：鹿島建設株式会社
私は幼い頃からものづくりが好きで、建設現場で働くことに興味がありました。就職活動で、会社説明会やインターンシップに参加する中で、建築系の職業の中でも施工管理職として働きたいと思うようになりました。また、東北地方に縁があることや、女性の活躍に積極的であることに魅力を感じ、この会社を選びました。現在は、一級建築士の資格取得に向けて勉強に励んでいます。卒業後は、地元で建設業に貢献できるよう、一生懸命に仕事を頑張りたいです。



薛松濤教授と中村琢己准教授が、本学の令和3年度「研究・社会貢献分野」の優秀教員として表彰されました。

Pick Up Lab. 船木研究室は地震や津波などの自然災害は、時として、想像を超える力で襲ってきます。2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、津波により多くの方が亡くなりました。研究室ではこのような悲劇を繰り返さないために、一般の方向けに津波に強い建物を考える体験型学習を行ってきました。写真のように簡単な建物模型を作って津波を再現する水槽に置き、どのような形の建物が津波に流されないかを考えてもらうものです。体験することによって自然災害や自身の身を守るための行動などについて自ら考えるきっかけになればと思っています。このような活動を行っています。



模型製作の様子



津波実験の様子



4年 武見 玲々華 さん
仙台南高校 出身

Pick Up Student 自分の学生生活を振り返ってみると、決める直前になって毎回迷いの方向性を変えているなと感じました。生物系の大学に進学するつもりで高校で生物の授業を取っていたのにも関わらず、急に都市計画に興味を持つようになりこの大学の建築科に入学し、計画の研究室に入る予定が、いま私は中村先生の歴史意匠の研究室に入っています。そして来年は、3年生になるまで一切考えていなかった、この大学の大学院への進学が決まっています。私はこれまでに何度も迷いの方向性を変更してきましたが、その選択に後悔したことは一度もありません。大学院に進学した後いろいろな迷うことは多くあると思いますが後悔しないように全力を尽くしていきたいです。



2年 松田 凌真 くん
新庄北高校 出身

Pick Up Student 2年後期となった現在、昨年と比べて授業の難易度が上がり、日々の課題等への取り組みがより重要になってきていると感じています。建築学には多くの分野が存在しますが、本学科では幅広く各分野についての授業が展開されており、日々の学習を通じて自分が興味のある分野や建築学を学ぶことの楽しさを見つけることができているように感じています。また、課外活動に参加することで古民家などの実際の建築物を訪れ、授業だけではできない経験することも自身の成長につながっています。来年度は研究室配属があり自分の将来に関わる重要な年となるため、現段階から自分自身について理解することを大切に、将来の自分の姿を意識しながら学生生活を送っていきたくです。